

関東ブロックDMAT訓練

東京都JRATが初参加

要配慮者対策と市区町村支援が 注目テーマに

2026年1月31日、東京都主催の関東ブロックDMAT訓練が実施され、東京都JRATは保健医療福祉調整本部会議への初参加という形で本訓練に参画しました。本訓練では、近年重要性が高まっている災害関連死対策の一環として、要配慮者対策および市区町村支援におけるJRATへの期待の高まりを強く感じる機会となりました。東京都JRATは、災害対策本部・現地対策本部・都庁本部の三つに役割を分け、実際の災害対応を想定し、初動対応および本部機能を確認するシミュレーション訓練を行いました。



今後に向けて 一訓練を「実装」へつなげる一

今回の訓練を通じて、東京都という大規模かつ独自性の高い災害対応体制の中で、JRATが果たすべき役割が明確になりました。今後は、東京都の災害リハビリテーション活動マニュアル整備とあわせて、初動体制・本部機能の強化、そして各地域における地元リハ職との連携・人材育成が重要な課題となります。引き続き、東京都JRATの活動へご理解・ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

東京JRATより

JRAT災害対策本部

一人員調整と方針決定の中核一

JRAT災害対策本部では、発災想定後の初動対応として、本部立ち上げ業務、活動方針の決定、並びに支援チーム編成を想定した人員調整・マッチング業務を行いました。訓練にあたり、支援スタッフの皆様には、メールによる可否確認や回答にご協力いただきました。心より御礼申し上げます。



市区町村現地対策本部

一市区町村支援と「繋ぐ役割」一

調布市を舞台に、市の災害対策本部内に入り、リエゾンとして他の災害医療団体や行政との調整を担いながら、避難所支援の方向性を検討しました。現地アセスメントの結果、人員調整見積もりを行い、限られたリソースを効果的に配分するための重点支援体制を構築しました。本活動を通じて、地域特性を理解した地元リハ職との協働の必要性や、平時からの情報共有体制づくりといった課題が明確となりました。



(写真) 市内を複数の地域に分け、重点地区を協議している様子。

都庁本部でのリエゾン活動

一保健医療福祉調整本部会議へ一

保健医療福祉調整本部会議に参加し、JRATリエゾンとして会議で求められた情報や依頼内容をJRAT災害対策本部へ共有しました。これを受け、災害対策本部において区市町村支援を想定した派遣可能人員の見直し整理や、要配慮者対策を意識した市民向けリーフレット作成が行われ、その内容をリエゾンとして提供しました。



